

津波シナリオバンク

データ規約集

2021/02/26 版

-改訂履歴-

日付	改訂対象	改訂内容
2021年2月	—	津波シナリオバンクデータ規約集の初版 制定

-目次-

用語定義	1
津波シナリオバンク：公開データ構成	3
津波シナリオバンク：時系列水位バイナリファイル規約	7
津波シナリオバンク：時系列全水深バイナリファイル規約	9
津波シナリオバンク：最大水位ファイル規約	11
津波シナリオバンク：最大相対水位ファイル規約	13
津波シナリオバンク：水位到達時間ファイル規約	15
津波シナリオバンク：相対水位到達時間ファイル規約	17
津波シナリオバンク：最大浸水深バイナリファイル規約	19
津波シナリオバンク：浸水深到達時間バイナリファイル規約	21
断層データバンク：断層パラメータファイル規約	23
断層データバンク：鉛直地殻変動量バイナリファイル規約	26
断層データバンク：水平地殻変動水位変化量バイナリファイル規約	28
断層データバンク：初期津波高バイナリファイル規約	30
基礎データバンク：沿岸水位抽出点データファイル規約	32
地点データバンク：観測点データファイル規約	34
抽出点 ID 規約	36
基礎データ系コード規約	37
シナリオリストファイル規約	38
シナリオ命名規約	40
断層リストファイル規約	41
断層命名規約	43

用語定義

1. 概要

津波シナリオバンクの用語定義を示す。

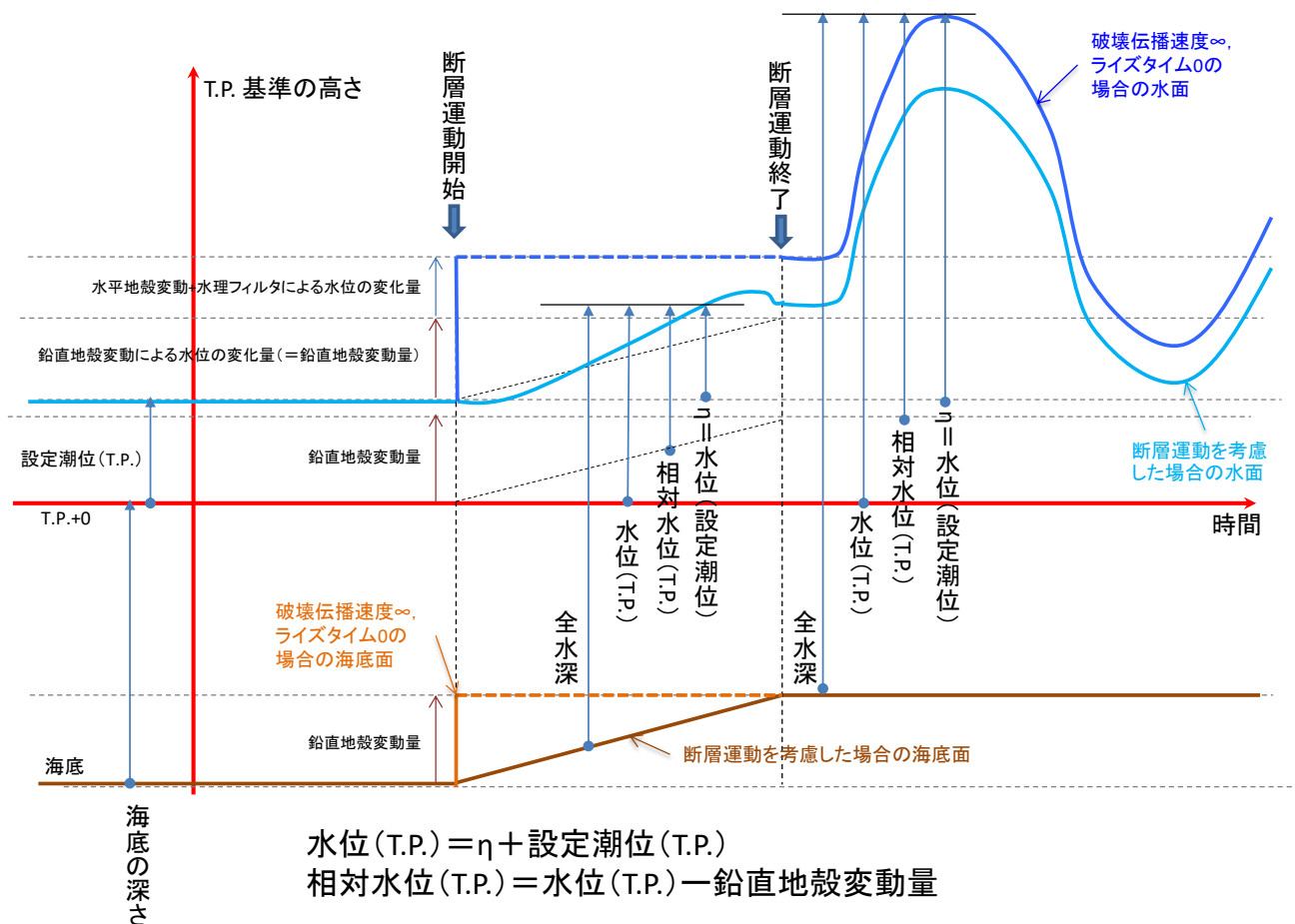
2. 用語定義

津波シナリオバンクの用語定義を以下に示す。

表 2-1 用語定義

用語	定義	備考
水位（基準面）	基準面からの水面の高さとする。その最大値を最大水位（基準面）と表記する。	基準面として東京湾平均海面（以下、T.P. と呼ぶ）を用いるため、水位（T.P.）および最大水位（T.P.）と表記する。もしくは、単に水位および最大水位とする場合もある。 水位（基準面）＝水位（設定潮位（基準面））＋設定潮位（基準面） ここで、水位（設定潮位（基準面））は津波の伝播方程式でしばしば用いられる η に等しい。
相対水位（基準面）	水位（基準面）から鉛直地殻変動量を差し引いた値とする。その最大値を最大相対水位（基準面）と表記する。	相対水位（T.P.）および最大相対水位（T.P.）と表記する。もしくは、単に相対水位および最大相対水位とする場合もある。 相対水位（基準面）＝水位（基準面）－鉛直地殻変動量
設定潮位（基準面）	計算に用いる地震発生前の水位（基準面）とする。	T.P. +0m、朔望平均満潮位など。
全水深	海底から水面までの鉛直距離とする。	
標高	T.P. を基準とした、海底あるいは地面の高さとする。	
領域 ID	基礎データバンク等の領域データにおいて、格子間隔が同じ各領域を識別するための整数とする。	

用語	定義	備考
格子番号 (i, j)	<p>1 オフセットの領域データ格子番号とする。</p> <p>具体的には以下とする。</p> <p>領域南西端格子番号 : (1, 1)</p> <p>領域北東端格子番号 : (N₁, N_j)</p> <p>N₁ : X (E) 方向領域格子数</p> <p>N_j : Y (N) 方向領域格子数</p>	<p>最大浸水深バイナリファイル等の領域データの格子位置を示すために使われる。</p>



津波シナリオバンク：公開データ構成

1. 概要

津波シナリオバンクの公開データ構成を示す。

2. データの表現方式

津波シナリオバンク全体のデータの表現方式を以下に示す。

- バイナリ以外のファイルは ASCII コードのみを使用する。
- バйнаリのエンディアンはリトルエンディアンとする。
- バイナリファイルの拡張子は「bin」とする。
- ASCII ファイルの拡張子は「dat」（スペース区切り）、「csv」（カンマ区切り）とする。
- ASCII ファイルの改行コードは LF とする。
- 行末尾に区切り文字を記述してはならない。
- 区切り文字が半角スペースである場合、連続した区切り文字は一個の区切りとして解釈する。
- ファイル名のハイフン区切りがディレクトリマップの第 3 階層以下の構成に対応する。

3. 構成図

(1) 全体構成

津波シナリオバンクのデータ構成を下記のディレクトリマップに示す。

表 3-1 ディレクトリマップ

ID	階層構造				含まれるファイル種別	
	第1階層	第2階層	第3階層	第4階層		第5階層
0	ルート				津波シナリオバンクデータ規約集.pdf	
1		震源断層モデル種別*			シナリオリスト	
2					断層リスト	
3					断層パラメータアーカイブ	
4				シナリオデータ(Height)	シナリオアーカイブ*	
5				浸水深到達時間シナリオデータ(ArrivalTime)	浸水深到達時間シナリオアーカイブ*	
6				断層データ(Initial)	断層アーカイブ*	
7		観測点(Site)				
8			ObsStation			
9			EPSGコード*(3100)		観測点データ*	
10		基礎(Mesh)				
11				沿岸水位抽出点(ExtractCoastalPoint)		
12				基礎データ系コード・バージョン番号*		
13				格子間隔*		沿岸水位抽出点データ*
14		ツール(Tools)			面的データnetCDF変換ツール(bin2netCDF.tar.gz)	

*複数存在することを許す

震源断層モデル種別は以下の通り：

表 3-2 震源断層モデル種別一覧

震源断層モデル種別	説明
Beta1.77-PAC	千島海溝・日本海溝・伊豆小笠原海溝プレート境界 $\beta=1.77$
Beta1.77-PAC-OR	千島海溝・日本海溝・伊豆小笠原海溝アウターライズ $\beta=1.77$
Beta1.77-PAC-OR_S45	千島海溝・日本海溝・伊豆小笠原海溝アウターライズ走向45度回転 $\beta=1.77$
Beta1.77-ST	相模トラフプレート境界 $\beta=1.77$
Beta2.00-AF	日本海溝 大陸プレート内 $\beta=2.00$
Beta6.00-AF	日本海溝 大陸プレート内 $\beta=6.00$
Beta6.00-PAC	千島海溝・日本海溝・伊豆小笠原海溝プレート境界 $\beta=6.00$
Beta6.00-ST	相模トラフプレート境界 $\beta=1.77$
Beta10.00-PAC	千島海溝・日本海溝・伊豆小笠原海溝プレート境界 $\beta=10.00$

(2) シナリオアーカイブ

浸水深到達時間を除くシナリオデータと、紐づく断層データを xz で圧縮したアーカイブファイル。
以下のファイル名とする。

[シナリオコード]. tar. xz

展開後のデータ構成を下記に示す。

表 3-3 シナリオアーカイブ ディレクトリマップ

ID	階層構造					含まれるファイル種別
	第1階層	第2階層	第3階層	第4階層	第5階層	
0	シナリオ (Scenario)					
1		シナリオコード (SXXXXXXX)				時系列水位バイナリファイル
2						時系列全水深バイナリファイル
3			沿岸 (Coastal)			最大水位ファイル
4						最大相対水位ファイル
5						水位到達時間ファイル
6						相対水位到達時間ファイル
7			陸域 (Land)			
8				最大浸水深 (InundationDepth)		
9				格子間隔 (MXXXX) *		最大浸水深バイナリファイル
10	断層 (Fault)					
11		断層コード (FXXXXXXX)				
12			断層パラメータ (Param)			
13				EPSGコード*		断層パラメータファイル
14			鉛直地殻変動量 (VrtDeform)			
15				基礎データ系コード*		
16				格子間隔 (MXXXX) *		鉛直地殻変動量バイナリファイル*
17			水平地殻変動水位変化量 (HeightByHrzDeform)			
18				基礎データ系コード*		
19				格子間隔 (MXXXX) *		水平地殻変動水位変化量バイナリファイル*
20			初期津波高 (InitialTsunamiHeight)			
21				基礎データ系コード*		
22				格子間隔 (MXXXX) *		初期津波高バイナリファイル*

*複数存在することを許す

(3) 浸水深到達時間シナリオアーカイブ

シナリオの浸水深到達時間データのみを xz で圧縮したアーカイブファイル。
以下のファイル名とする。

[シナリオコード]_ArrivalTime. tar. xz

展開後のデータ構成を下記に示す。

表 3-4 浸水深到達時間シナリオアーカイブ ディレクトリマップ

ID	階層構造					含まれるファイル種別
	第1階層	第2階層	第3階層	第4階層	第5階層	
0	シナリオ (Scenario)					
1		シナリオコード (SXXXXXXX)				
2			陸域 (Land)			
3				浸水深到達時間 (ArrivalTime)		
4				格子間隔 (MXXXX) *		浸水深到達時間バイナリファイル*

*複数存在することを許す

(4) 断層アーカイブ

断層データを xz で圧縮したアーカイブファイル。

以下のファイル名とする。

[断層コード]. tar. xz

展開後のデータ構成を下記に示す。

表 3-5 断層アーカイブ ディレクトリマップ

階層構造					含まれるファイル種別
ID	第1階層	第2階層	第3階層	第4階層	
0	断層 (Fault)				
1		断層コード (FXXXXXXX)			
2			断層パラメータ (Param)		
3			EPSCコード*		断層パラメータファイル
4			鉛直地殻変動量 (VrtDeform)		
5			基礎データ系コード*		
6			格子間隔 (MXXXX)*		鉛直地殻変動量バイナリファイル*
7			水平地殻変動水位変化量 (HeightByHrzDeform)		
8			基礎データ系コード*		
9			格子間隔 (MXXXX)*		水平地殻変動水位変化量バイナリファイル*
10			初期津波高 (InitialTsunamiHeight)		
11			基礎データ系コード*		
12			格子間隔 (MXXXX)*		初期津波高バイナリファイル*

*複数存在することを許す

(5) 断層パラメータアーカイブ

震源断層モデル種別に該当する全断層パラメータファイルを xz で圧縮したアーカイブファイル。

以下のファイル名とする。

Fault-Params. tar. xz

展開後のデータ構成を下記に示す。

表 3-6 断層パラメータアーカイブ ディレクトリマップ

階層構造		含まれるファイル種別
ID	第1階層	
0	断層パラメータ (Fault-Params)	断層パラメータファイル*

*複数存在することを許す

津波シナリオバンク：時系列水位バイナリファイル規約

1. 概要

津波シナリオバンクの時系列水位データを記述するバイナリファイルの規約を示す。時系列水位データは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

時系列水位バイナリファイルは以下のファイル名とする。

[シナリオコード]-Height.bin

(1) シナリオコード

シナリオリストファイルで定義される。

3. データ記述規約

時系列水位バイナリファイルは、ヘッダブロックとデータブロックから構成される。以下にヘッダブロックとデータブロックの記述規約を示す。

(1) ヘッダブロック

ヘッダブロックは観測点コードと計算開始からの経過時間の一次元配列を記述する。

表 3-1 ヘッダブロック

開始位置 (byte)	サイズ (byte)	型	項目
0	4	int	観測点数 N
4	4	int	時間数 L
8	32	char [32]	左寄せにした観測点 1 の観測点コード。 空いた領域は 0x00 で埋める。
...			
8+32*(N-1)	32	char [32]	左寄せにした観測点 N の観測点コード 空いた領域は 0x00 で埋める。
8+32*N	4	float	1 番目の時間
...			
8+32*N+4*(L-1)	4	float	L 番目の時間

(2) データブロック

データブロックは、ヘッダブロックで定義された N 個の観測点それぞれが保持する L 個の時系列水位データを記述する。水位[m]は東京湾平均海面 (T.P.) を基準とする。

表 3-2 データブロック

開始位置 (byte)	サイズ (byte)	型	項目
$8+32*N+4*L$	4	float	観測点 1 の 1 番目の時間の水位 [m] データが無い場合、-9999.0 とする。
...			
$8+32*N+4*L+4*(N-1)$	4	float	観測点 N の 1 番目の時間の水位 [m] データが無い場合、-9999.0 とする。
$8+32*N+4*L+4*N$	4	float	観測点 1 の 2 番目の時間の水位 [m] データが無い場合、-9999.0 とする。
...			
$8+32*N+4*L+4*N*(L-1)+4*(N-1)$	4	float	観測点 N の L 番目の時間の水位 [m] データが無い場合、-9999.0 とする。

※総データサイズ： $8+32*N+4*L+4*N*L$

ただし、どの最小格子領域でも計算されていない場合、及び計算しているがすべての領域で有意でない計算と判断された場合は、時間数 L を 1、1 番目の時間を 0 とし、全観測点において 1 番目の時間の水位のみを -9999 [m] として保持する。

4. 改訂履歴

2021 年 2 月 初版作成

津波シナリオバンク：時系列全水深バイナリファイル規約

1. 概要

津波シナリオバンクの時系列全水深データを記述するバイナリファイルの規約を示す。時系列全水深データは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

時系列全水深バイナリファイルは以下のファイル名とする。

[シナリオコード]-TotalDepth.bin

(1) シナリオコード

シナリオリストファイルで定義される。

3. データ記述規約

時系列全水深バイナリファイルは、ヘッダブロックとデータブロック1、データブロック2から構成される。以下にヘッダブロックとデータブロック1、データブロック2の記述規約を示す。

(1) ヘッダブロック

ヘッダブロックは観測点コードと時間軸の一次元配列を記述する。

表 3-1 ヘッダブロック

開始位置 (byte)	サイズ (byte)	型	項目
0	4	int	観測点数 N
4	4	int	時間数 L
8	32	char [32]	左寄せにした観測点 1 の観測点コード。空いた領域は 0x00 で埋める。
...			
8+32*(N-1)	32	char [32]	左寄せにした観測点 N の観測点コード 空いた領域は 0x00 で埋める。
8+32*N	4	float	1 番目の時間
...			
8+32*N+4*(L-1)	4	float	L 番目の時間

(2) データブロック 1

データブロック 1 は、ヘッダブロックで定義された N 個の観測点それぞれが保持する全水深の初期値 [m]（地震発生前の全水深）を記述する。

表 3-2 データブロック 1

開始位置 (byte)	サイズ (byte)	型	項目
$8+32*N+4*L$	8	double	観測点 1 の全水深の初期値 [m]
...			
$8+32*N+4*L+8*(N-1)$	8	double	観測点 N の全水深の初期値 [m]

(3) データブロック 2

データブロック 2 は、ヘッダブロックで定義された N 個の観測点それぞれが保持する L 個の時系列全水深データを記述する。全水深 [m] は、データブロック 1 で記述した全水深の初期値を基準とした変動値とする。

表 3-3 データブロック 2

開始位置 (byte)	サイズ (byte)	型	項目
$8+32*N+4*L+8*N$	4	float	観測点 1 の 1 番目の時間の全水深の変動値 [m] データが無い場合、-9999.0 とする。
...			
$8+32*N+4*L+8*N+4*(N-1)$	4	float	観測点 N の 1 番目の時間の全水深の変動値 [m] データが無い場合、-9999.0 とする。
$8+32*N+4*L+8*N+4*N$	4	float	観測点 1 の 2 番目の時間の全水深の変動値 [m] データが無い場合、-9999.0 とする。
...			
$8+32*N+4*L+8*N+4*N*(L-1)+4*(N-1)$	4	float	観測点 N の L 番目の時間の全水深の変動値 [m] データが無い場合、-9999.0 とする。

※総データサイズ： $8+32*N+4*L+8*N+4*N*L$

ただし、どの最小格子領域でも計算されていない場合、及び計算しているがすべての領域で有意でない計算と判断された場合は、時間数 L を 1、1 番目の時間を 0 とし、全観測点において 1 番目の時間の全水深の変動値のみを $-9.999e+03$ [m] として保持する。

4. 改訂履歴

2021 年 2 月 初版作成

津波シナリオバンク：最大水位ファイル規約

1. 概要

津波シナリオバンクの最大水位データを記述するファイルの規約を示す。最大水位ファイルは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

最大水位ファイルは以下のファイル名とする。

[シナリオコード]-Coastal-MaxAbsHeight.csv

(1) シナリオコード

シナリオリストファイルで定義される。

3. データ記述規約

最大水位ファイルはヘッダブロックとデータブロックから構成される CSV ファイルとする。ヘッダは列名を定義する。データブロックには、各沿岸水位抽出点の最大水位データを記述する。

以下にヘッダブロックとデータブロックの記述規約を示す。

(1) ヘッダブロック

“SiteID,MaxAbsHeight,MaxArrivalTime” の1行の文字列で固定とする。これは、データブロックの列名と対応する。

(2) データブロック

データブロックは、各沿岸水位抽出点に対応する最大水位データ及び最大水位到達時間データを記述するブロックである。各データは”,” で区切られる。

表 3-1 データブロック

列番号	列名	書式	説明
01	SiteID	%s	沿岸水位抽出点 ID。「抽出点 ID 規約」を参照のこと。
02	MaxHeight	%.3f	最大水位[m] データが無い場合、-9999.000 とする。
03	MaxArrivalTime	%.1f	最大水位到達の時間[秒]。 データが無い場合、-9999.0 とする。

(3) データ記述例

データ記述例を以下に示す。

表 3-2 データ記述例

データ記述例	説明
SiteID, MaxAbsHeight, MaxArrivalTime	ヘッダブロック
TSB0010E3100BOS160325-M0050-R0001-00181_00168-C, 0. 902, 3032. 0 TSB0010E3100BOS160325-M0050-R0001-00181_00167-C, 1. 102, 3040. 0 TSB0010E3100BOS160325-M0050-R0001-00181_00166-C, 0. 880, 2809. 0 ...	データブロック

4. 改訂履歴

2021年2月 初版作成

津波シナリオバンク：最大相対水位ファイル規約

1. 概要

津波シナリオバンクの最大相対水位データを記述するファイルの規約を示す。最大相対水位データは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

相対水位ファイルは以下のファイル名とする。

[シナリオコード]-Coastal-MaxRelativeHeight.csv

(1) シナリオコード

シナリオリストファイルで定義される。

3. データ記述規約

相対水位ファイルは、ヘッダブロックとデータブロックから構成される CSV ファイルとする。ヘッダは列名を定義する。データブロックには、各沿岸水位抽出点の最大相対水位データを記述する。

以下にヘッダブロックとデータブロックの記述規約を示す。

(1) ヘッダブロック

“SiteID, MaxRelativeHeight, MaxArrivalTime” の1行の文字列で固定とする。これは、データブロックの列名と対応する。

(2) データブロック

データブロックは、各沿岸水位抽出点に対応する最大相対水位データ及び最大相対水位到達時間データを記述するブロックである。各データは”,” で区切られる。

表 3-1 データブロック

列番号	列名	書式	説明
01	SiteID	%s	沿岸水位抽出点 ID。「抽出点 ID 規約」を参照のこと。
02	MaxRelativeHeight	%. 3f	最大相対水位 [m] データが無い場合、-9999.000 とする。
03	MaxArrivalTime	%. 1f	最大相対水位到達の時間 [秒] データが無い場合、-9999.0 とする。

(3) データ記述例

データ記述例を以下に示す。

表 3-2 データ記述例

データ記述例	説明
SiteID, MaxRelativeHeight, MaxArrivalTime	ヘッダブロック
TSB0010E3100B0S160325-M0050-R0001-00181_00169-C, 1. 000, 258 9. 0 TSB0010E3100B0S160325-M0050-R0001-00181_00168-C, 0. 900, 303 2. 0 TSB0010E3100B0S160325-M0050-R0001-00181_00167-C, 1. 100, 304 0. 0 TSB0010E3100B0S160325-M0050-R0001-00181_00166-C, 0. 900, 280 9. 0 ...	データブロック

4. 改訂履歴

2021年2月 初版作成

津波シナリオバンク：水位到達時間ファイル規約

1. 概要

津波シナリオバンクの水位到達時間データを記述するファイルの規約を示す。水位到達時間とは、震源断層破壊開始時刻を時間原点とし、T.P. 0m 基準とした水位が、最初に正の閾値以上または負の閾値以下となった時刻とする。水位到達時間データは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

水位到達時間ファイルは以下のファイル名とする。

[シナリオコード]-Coastal-ArrivalTimeHeight.csv

(1) シナリオコード

シナリオリストファイルで定義される。

3. データ記述規約

水位到達時間ファイルは、ヘッダブロックとデータブロックから構成される GSV ファイルとする。ヘッダは列名を定義する。データブロックには、各沿岸水位抽出点の水位到達時間データを記述する。以下にヘッダブロックとデータブロックの記述規約を示す。

(1) ヘッダブロック

” SiteID, <H₁>cm, <H₂>cm, …, <H_M>cm” の1行の文字列とする。Hは水位の閾値[cm]とする。これは、データブロックの列名と対応する。

(2) データブロック

データブロックは、各沿岸水位抽出点に対応する水位到達時間データを記述するブロックである。水位到達時間とは、震源断層破壊開始時刻を時間原点とし、水位が最初に正の閾値以上または負の閾値以下となった時刻とする。各データは”,” で区切られる。

表 3-1 データブロック

列番号	列名	書式	説明
01	SiteID	%s	沿岸水位抽出点 ID。「抽出点 ID 規約」を参照のこと。
02	H ₁ cm	%. 1f	水位 H ₁ cm 到達の時間[秒] データが無い、もしくは到達しない場合、-9999.0 とする。
03	H ₂ cm	%. 1f	水位 H ₂ cm 到達の時間[秒] データが無い、もしくは到達しない場合、-9999.0 とする。
...
M+1	H _M cm	%. 1f	水位 H _M cm 到達の時間[秒] データが無い、もしくは到達しない場合、-9999.0 とする。

(3) データ記述例

データ記述例を以下に示す。

表 3-2 データ記述例

データ記述例	説明
SiteID, +20cm, -20cm, +50cm, -50cm, +100cm, -100cm	ヘッダブロック
TSB0010E3100BOS160325-M0050-R0001-00181_00169-C, 1805. 0, 23 27. 0, 1926. 0, 2537. 0, 4726. 0, -9999. 0 TSB0010E3100BOS160325-M0050-R0001-00181_00168-C, 1804. 0, 24 33. 0, 1924. 0, -9999. 0, -9999. 0, -9999. 0 TSB0010E3100BOS160325-M0050-R0001-00181_00167-C, 1813. 0, 23 19. 0, 1928. 0, 2440. 0, 4732. 0, -9999. 0 TSB0010E3100BOS160325-M0050-R0001-00181_00166-C, 1805. 0, 24 36. 0, 1922. 0, -9999. 0, -9999. 0, -9999. 0 ...	データブロック 例えば 1 行目の沿岸水位抽出点 ID TSB0010E3100BOS160325-M0050-R0001-00181_00169-C では、水位+100cm が到達する時間は 4726 秒で、水位-100cm は到達しない。

4. 改訂履歴

2021 年 2 月 初版作成

津波シナリオバンク：相対水位到達時間ファイル規約

1. 概要

津波シナリオバンクの相対水位到達時間データを記述するファイルの規約を示す。相対水位到達時間とは、震源断層破壊開始時刻を時間原点とし、T.P.0mを基準とした相対水位が最初に正の閾値以上または負の閾値以下となった時刻とする。相対水位到達時間データは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

相対水位到達時間ファイルは以下のファイル名とする。

[シナリオコード]-Coastal-ArrivalTimeTsunami.csv
--

(1) シナリオコード

シナリオリストファイルで定義される。

3. データ記述規約

相対水位到達時間ファイルは、ヘッダブロックとデータブロックから構成されるCSVファイルとする。ヘッダは列名を定義する。データブロックには、各沿岸水位抽出点の相対水位到達時間データを記述する。以下にヘッダブロックとデータブロックの記述規約を示す。

(1) ヘッダブロック

” SiteID, <H₁>cm, <H₂>cm, …, <H_M>cm” の1行の文字列とする。T.P.0mを基準とした相対水位[cm]とする。これは、データブロックの列名と対応する。

(2) データブロック

データブロックは、各沿岸水位抽出点に対応する相対水位到達時間データを記述するブロックである。相対水位到達時間とは、震源断層破壊開始時刻を時間原点とし、相対水位が最初に正の閾値以上または負の閾値以下となった時刻とする。各データは”,” で区切られる。

表 3-1 データブロック

列番号	列名	書式	説明
01	SiteID	%s	沿岸水位抽出点 ID。「抽出点 ID 規約」を参照のこと。
02	H ₁ cm	%. 1f	相対水位 H ₁ cm 到達の時間[秒] データが無い、もしくは到達しない場合、-9999.0 とする。
03	H ₂ cm	%. 1f	相対水位 H ₂ cm 到達の時間[秒] データが無い、もしくは到達しない場合、-9999.0 とする。
...
M+1	H _M cm	%. 1f	相対水位 H _M cm 到達の時間[秒] データが無い、もしくは到達しない場合、-9999.0 とする。

(3) データ記述例

データ記述例を以下に示す。

表 3-2 データ記述例

データ記述例	説明
SiteID, +20cm, -20cm, +50cm, -50cm, +100cm, -100cm	ヘッダブロック
TSB0010E3100BOS160325-M0050-R0001-00181_00169-C, 1805. 0, 23 27. 0, 1926. 0, 2537. 0, 4726. 0, -9999. 0 TSB0010E3100BOS160325-M0050-R0001-00181_00168-C, 1804. 0, 24 33. 0, 1924. 0, -9999. 0, -9999. 0, -9999. 0 TSB0010E3100BOS160325-M0050-R0001-00181_00167-C, 1813. 0, 23 19. 0, 1928. 0, 2440. 0, 4732. 0, -9999. 0 TSB0010E3100BOS160325-M0050-R0001-00181_00166-C, 1805. 0, 24 36. 0, 1922. 0, -9999. 0, -9999. 0, -9999. 0 ...	データブロック 例えば 1 行目の沿岸水位抽出点 ID TSB0010E3100BOS160325-M0050-R0001-00181_00169-C では、相対水位+100cm が到達する時間は 4726 秒で、相対水位-100cm は到達しない。

4. 改訂履歴

2021 年 2 月 初版作成

津波シナリオバンク：最大浸水深バイナリファイル規約

1. 概要

津波シナリオバンクの最大浸水深データを記述するバイナリファイルの規約を示す。最大浸水深データは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

最大浸水深バイナリファイルは以下のファイル名とする。

[シナリオコード]-Land-InundationDepth-M[格子間隔]-R[領域 ID].bin

(1) シナリオコード

シナリオリストファイルで定義される。

(2) 格子間隔

最大浸水深バイナリファイルは、等間隔の格子でデータを記述するため、1つに決まる格子間隔[m]を書式%04dの整数値で記述する。

(3) 領域 ID

書式%04dの半角英数字で記述する。

3. データ記述規約

最大浸水深バイナリファイルは、ヘッダブロックとデータブロックから構成される。バイナリデータのエンディアンは全てリトルエンディアンとする。以下にヘッダブロックとデータブロックの記述規約を示す。

(1) ヘッダブロック

ヘッダブロックは領域情報を記述する。

表 3-1 ヘッダブロック

開始位置 (byte)	サイズ (byte)	型	項目
0	8	double	領域南西端格子中心の X 座標 (E) 座標系は、ファイル名の基礎データ系コードに含まれる EPSG コードと対応する。単位は、平面投影座標系の場合は [m]、地理座標系の場合は [度] とする。
8	8	double	領域南西端格子中心の Y 座標 (N) 座標系は、ファイル名の基礎データ系コードに含まれる EPSG コードと対応す

開始位置 (byte)	サイズ (byte)	型	項目
			る。単位は、平面投影座標系の場合は [m]、地理座標系の場合は [度] とする。
16	4	int	X(E) 方向格子数 I
20	4	int	Y(N) 方向格子数 J
24	4	float	格子間隔 [m]

(2) データブロック

データブロックは、ヘッダブロックで定義された $I \times J$ の格子に対応した最大浸水深を記述する。浸水していない格子の最大浸水深値は 0 とし、計算開始時点で浸水している格子の最大浸水深値は -999 とする。

表 3-2 データブロック

開始位置 (byte)	サイズ (byte)	型	項目
28	4	float	格子 (1, 1) の最大浸水深 [m]
32	4	float	格子 (2, 1) の最大浸水深 [m]
...			
$28+4*(I-1)$	4	float	格子 (I, 1) の最大浸水深 [m]
$28+4*I$	4	float	格子 (1, 2) の最大浸水深 [m]
$28+4*I+4$	4	float	格子 (2, 2) の最大浸水深 [m]
...			
$28+4*I*(j-1)+4*(i-1)$	4	float	格子 (i, j) の最大浸水深 [m]
...			
$28+4*I*(J-1)+4*(I-1)$	4	float	格子 (I, J) の最大浸水深 [m]

※総データサイズ： $28+4*I*J$

4. 改訂履歴

2021 年 2 月 初版作成

津波シナリオバンク：浸水深到達時間バイナリファイル規約

1. 概要

津波シナリオバンクの浸水深到達時間データを記述するバイナリファイルの規約を示す。浸水深到達時間とは、震源断層破壊開始時刻を時間原点とし、最初に浸水深が閾値以上となった時刻とする。浸水深到達時間データは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

浸水深到達時間バイナリファイルは以下のファイル名とする。

```
[シナリオコード]-Land-ArrivalTime-M[格子間隔]-R[領域 ID]_H[浸水深閾値].bin
```

ただし、最大浸水深の到達時間を記録したバイナリファイルは以下のファイル名とする。

```
[シナリオコード]-Land-ArrivalTime-M[格子間隔]-R[領域 ID]_HMAX.bin
```

(1) シナリオコード

シナリオリストファイルで定義される。

(2) 格子間隔

浸水深到達時間バイナリファイルは、等間隔の格子でデータを記述するため、1つに決まる格子間隔[m]を書式%04dの整数値で記述する。

(3) 領域 ID

書式%04dの半角英数字で記述する。

(4) 浸水深閾値

浸水深閾値[cm]を書式%04d（正の整数値）で記述する。

3. データ記述規約

浸水深バイナリファイルは、ヘッダブロックとデータブロックから構成される。バイナリデータのエンディアンは全てリトルエンディアンとする。以下にヘッダブロックとデータブロックの記述規約を示す。

(1) ヘッダブロック

ヘッダブロックは領域情報を記述する。

表 3-1 ヘッダブロック

開始位置 (byte)	サイズ (byte)	型	項目
0	8	double	領域南西端格子中心の X 座標 (E)

開始位置 (byte)	サイズ (byte)	型	項目
			座標系は、ファイル名の基礎データ系コードに含まれるEPSGコードと対応する。単位は、平面投影座標系の場合は[m]、地理座標系の場合は[度]とする。
8	8	double	領域南西端格子中心のY座標(N) 座標系は、ファイル名の基礎データ系コードに含まれるEPSGコードと対応する。単位は、平面投影座標系の場合は[m]、地理座標系の場合は[度]とする。
16	4	int	X(E)方向格子数 I
20	4	int	Y(N)方向格子数 J
24	4	float	格子間隔 [m]

(2) データブロック

データブロックは、ヘッダブロックで定義された $I \times J$ の格子に対応した浸水深到達時間を記述する。浸水深到達時間とは、震源断層破壊開始時刻を時間原点とし、最初に浸水深が閾値以上となった時刻とする。また、海域格子の場合は-999、非浸水格子の場合は-99とする。

表 3-2 データブロック

開始位置 (byte)	サイズ (byte)	型	項目
28	4	float	格子(1, 1)の浸水深到達時間[秒]
32	4	float	格子(2, 1)の浸水深到達時間[秒]
...			
$28+4*(I-1)$	4	float	格子(I, 1)の浸水深到達時間[秒]
$28+4*I$	4	float	格子(1, 2)の浸水深到達時間[秒]
$28+4*I+4$	4	float	格子(2, 2)の浸水深到達時間[秒]
...			
$28+4*I*(j-1)+4*(i-1)$	4	float	格子(i, j)の浸水深到達時間[秒]
...			
$28+4*I*(J-1)+4*(I-1)$	4	float	格子(I, J)の浸水深到達時間[秒]

※総データサイズ： $28+4*I*J$

4. 改訂履歴

2021年2月 初版作成

断層データバンク：断層パラメータファイル規約

1. 概要

断層データバンクの断層パラメータを記述するファイルの規約を示す。断層パラメータは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

断層パラメータファイルは以下のファイル名とする。

`[断層コード]-Param-[EPSGコード]-[日付].dat`

(1) 断層コード

断層リストファイルで定義される。

(2) EPSG コード

EPSG コードを書式%dの整数値で記述する。

(3) 日付

断層パラメータファイルを制定した日付を yymmdd の形式で記述する。

3. データ記述規約

断層パラメータファイルは、各行に要素断層毎のパラメータを「半角スペース」で区切って記述した dat ファイルである。以下にデータブロックの記述規約を示す。

(1) データブロック

データブロックの内容を以下に示す。

表 3-1 データブロック

列番号	項目	書式	説明
01	断層原点 Y	説明 参照	断層面を手前に傾き下がるように置いた場合、左上端点の Y 座標値 (N) 座標系は、ファイル名に含まれる EPSG コードと対応する。単位は、平面投影座標系の場合は [m] (書式: %.2f)、地理座標系の場合は [度] (書式: %.7f) とする。
02	断層原点 X	説明 参照	断層面を手前に傾き下がるように置いた場合、左上端点の X 座標値 (E) 座標系は、ファイル名に含まれる EPSG コードと対応する。単位は、平面投影座標系の場合は [m] (書式: %.2f)、地理座標系の場合は [度] (書式: %.7f) とする。

列番号	項目	書式	説明
03	断層原点の T. P. 基準の深さ	%. 2f	断層面を手前に傾き下がるように置いた場合、左上端点の東京湾平均海面 (T. P.) を基準とした深さ [m] を指定する。
04	断層原点の補正後深さ	%. 2f	断層面を手前に傾き下がるように置いた場合、左上端点の深さ [m] を指定する。補正後深さとは、断層原点の T. P. 基準の深さから各要素断層位置における水深を差し引いた値とする。
05	断層の走向方向	%. 2f	北向きを 0° として時計回りに測った角度 [度] 二次元投影された座標系 (EPSG) における値とする。
06	断層面の傾斜角	%. 2f	断層面の水平面からの傾斜角 [度]
07	すべり角	%. 2f	上盤の下盤に対する食い違い方向を、断層面上で走向方向より反時計回りに測った角度 [度]
08	断層の長さ	%. 2f	単位は [m] とする。
09	断層の幅	%. 2f	単位は [m] とする。
10	断層の全すべり量	%. 2f	単位は [m] とする。
11	要素断層名	%s	ファイル内で一意とすること。 半角英数字とアンダースコアで記述すること。
12	破壊開始時刻	%. 3f	単位は [秒] とする。 空の場合、計算開始時刻に破壊するものとする。
13	すべり継続時間	%. 3f	単位は [秒] とする。 空の場合、破壊開始時刻に瞬間的に破壊するものとする。

(2) データ記述例

データ記述例を以下に示す。

表 3-2 データ記述例

データ記述例	説明
4022658.25 665373.44 8943.23 741.59 211.34 2.93 97.00 4999.20 5091.87 5.40 JT130_37 0.000 10.000 4022744.75 670472.81 8792.41 386.42 211.55 2.70 98.00 4999.20 5090.85 5.40 JT130_36 4.000 2.400 4022849.25 675567.81 8395.02 64.82 211.50 2.46 97.00 4999.20 5089.89 5.40 JT130_35 4027495.25 655084.12 11048.22 2406.38 210.75 3.72 97.00 4999.20 5092.98 5.40 JT129_39 2.000 4027510.75 660196.62 10493.45 1828.99 212.02 3.37 98.00 4999.20 5091.08 5.40 JT129_38 1.000 2.000 ...	データブロック ・要素断層 JT130_37 は、0 秒後に 10 秒間かけて 5.4m すべる ・要素断層 JT130_36 は、4 秒後に 2.4 秒間かけて 5.4m すべる ・要素断層 JT130_35 は、0 秒後に瞬間的に 5.4m すべる ・要素断層 JT129_39 は、2 秒後に瞬間的に 5.4m すべる ・要素断層 JT129_38 は、1 秒後に 2 秒間かけて 5.4m すべる

4. 改訂履歷

2021年2月

初版作成

断層データバンク：鉛直地殻変動量バイナリファイル規約

1. 概要

断層データバンクの鉛直方向の地殻変動量を記述するバイナリファイルの規約を示す。鉛直地殻変動量データは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

すべての要素断層が同時に破壊する場合の鉛直地殻変動量バイナリファイルは以下のファイル名とする。

[断層コード]-VrtDeform-[基礎データ系コード]-M[格子間隔]-R[領域 ID].bin
--

(1) 断層コード

断層リストファイルで定義される。

(2) 基礎データ系コード

「基礎データ系コード規約」を参照のこと。

(3) 格子間隔

鉛直地殻変動量バイナリファイルは、等間隔の格子でデータを記述するため、1つに決まる格子間隔[m]を書式%04dの整数値で記述する。

(4) 領域 ID

書式%04dの半角英数字で記述する。

3. データ記述規約

鉛直地殻変動量バイナリファイルは、ヘッダブロックとデータブロックから構成される。バイナリデータのエンディアンは全てリトルエンディアンとする。以下にヘッダブロックとデータブロックの記述規約を示す。

(1) ヘッダブロック

ヘッダブロックは領域情報を記述する。

表 3-1 ヘッダブロック

開始位置 (byte)	サイズ (byte)	型	項目
0	8	double	領域南西端格子中心の X 座標 (E) 座標系は、ファイル名の基礎データ系コードに含まれる EPSG コードと対応する。単位は、平面投影座標系の場合は

開始位置 (byte)	サイズ (byte)	型	項目
			[m]、地理座標系の場合は[度]とする。
8	8	double	領域南西端格子中心のY座標(N) 座標系は、ファイル名の基礎データ系 コードに含まれるEPSGコードと対応す る。単位は、平面投影座標系の場合は [m]、地理座標系の場合は[度]とする。
16	4	int	X(E)方向格子数 I
20	4	int	Y(N)方向格子数 J
24	4	float	格子間隔 [m]

(2) データブロック

データブロックは、ヘッダブロックで定義された $I \times J$ の格子に対応した鉛直地殻変動量を記述する。

表 3-2 データブロック

開始位置 (byte)	サイズ (byte)	型	項目
28	4	float	格子(1, 1)の鉛直地殻変動量[m]
32	4	float	格子(2, 1)の鉛直地殻変動量[m]
...			
$28+4*(I-1)$	4	float	格子(I, 1)の鉛直地殻変動量[m]
$28+4*I$	4	float	格子(1, 2)の鉛直地殻変動量[m]
$28+4*I+4$	4	float	格子(2, 2)の鉛直地殻変動量[m]
...			
$28+4*I*(j-1)+4*(i-1)$	4	float	格子(i, j)の鉛直地殻変動量[m]
...			
$28+4*I*(J-1)+4*(I-1)$	4	float	格子(I, J)の鉛直地殻変動量[m]

※総データサイズ： $28+4*I*J$

4. 改訂履歴

2021年2月 初版作成

断層データバンク：水平地殻変動水位変化量バイナリファイル規約

1. 概要

断層データバンクの水平地殻変動の効果による水位変化量を記述するバイナリファイルの規約を示す。水平地殻変動水位変化量データは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

すべての要素断層が同時に破壊する場合の水平地殻変動水位変化量バイナリファイルは以下のファイル名とする。

[断層コード]-HeightByHrzDeform-[基礎データ系コード]-M[格子間隔]-R[領域 ID]. bin

(1) 断層コード

シナリオリストファイルで定義される。

(2) 基礎データ系コード

「基礎データ系コード規約」を参照のこと。

(3) 格子間隔

水平地殻変動水位変化量バイナリファイルは、等間隔の格子でデータを記述するため、1つに決まる格子間隔[m]を書式%04dの整数値で記述する。

(4) 領域 ID

書式%04dの整数値で記述する。

3. データ記述規約

水平地殻変動水位変化量バイナリファイルは、ヘッダブロックとデータブロックから構成される。バイナリデータのエンディアンは全てリトルエンディアンとする。以下にヘッダブロックとデータブロックの記述規約を示す。

(1) ヘッダブロック

ヘッダブロックは領域情報を記述する。

表 3-1 ヘッダブロック

開始位置 (byte)	サイズ (byte)	型	項目
0	8	double	領域南西端格子中心の X 座標 (E) 座標系は、ファイル名の基礎データ系コードに含まれる EPSG コードと対応する。単位は、平面投影座標系の場合は

開始位置 (byte)	サイズ (byte)	型	項目
			[m]、地理座標系の場合は[度]とする。
8	8	double	領域南西端格子中心のY座標(N) 座標系は、ファイル名の基礎データ系 コードに含まれるEPSGコードと対応す る。単位は、平面投影座標系の場合は [m]、地理座標系の場合は[度]とする。
16	4	int	X(E)方向格子数 I
20	4	int	Y(N)方向格子数 J
24	4	float	格子間隔 [m]

(2) データブロック

データブロックは、ヘッダブロックで定義された $I \times J$ の格子に対応した水平地殻変動水位変化量を記述する。水平地殻変動水位変化量は陸域水域に関わらず有効な値を記述する。

表 3-2 データブロック

開始位置 (byte)	サイズ (byte)	型	項目
28	4	float	格子(1, 1)の水平地殻変動水位変化量[m]
32	4	float	格子(2, 1)の水平地殻変動水位変化量[m]
...			
$28+4*(I-1)$	4	float	格子(1, 1)の水平地殻変動水位変化量[m]
$28+4*I$	4	float	格子(1, 2)の水平地殻変動水位変化量[m]
$28+4*I+4$	4	float	格子(2, 2)の水平地殻変動水位変化量[m]
...			
$28+4*I*(j-1)+4*(i-1)$	4	float	格子(i, j)の水平地殻変動水位変化量[m]
...			
$28+4*I*(J-1)+4*(I-1)$	4	float	格子(I, J)の水平地殻変動水位変化量[m]

※総データサイズ： $28+4*I*J$

4. 改訂履歴

2021年2月 初版作成

断層データバンク：初期津波高バイナリファイル規約

1. 概要

断層データバンクの初期津波高データを記述するバイナリファイルの規約を示す。初期津波高データは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

すべての要素断層が同時に破壊する場合の初期津波高バイナリファイルは以下のファイル名とする。

[断層コード]-InitialTsunamiHeight-[基礎データ系コード]-M[格子間隔]-R[領域 ID].bin

(1) 断層コード

断層リストファイルで定義される。

(2) 基礎データ系コード

「基礎データ系コード規約」を参照のこと。

(3) 格子間隔

初期津波高バイナリファイルは、等間隔の格子でデータを記述するため、1つに決まる格子間隔[m]を書式%04dの整数値で記述する。

(4) 領域 ID

書式%04dの整数値で記述する。

3. データ記述規約

初期津波高バイナリファイルは、ヘッダブロックとデータブロックから構成される。バイナリデータのエンディアンは全てリトルエンディアンとする。以下にヘッダブロックとデータブロックの記述規約を示す。

(1) ヘッダブロック

ヘッダブロックは領域情報を記述する。

表 3-1 ヘッダブロック

開始位置 (byte)	サイズ (byte)	型	項目
0	8	double	領域南西端格子中心の X 座標 (E) 座標系は、ファイル名の基礎データ系コードに含まれる EPSG コードと対応する。単位は、平面投影座標系の場合は

開始位置 (byte)	サイズ (byte)	型	項目
			[m]、地理座標系の場合は[度]とする。
8	8	double	領域南西端格子中心のY座標(N) 座標系は、ファイル名の基礎データ系 コードに含まれるEPSGコードと対応す る。単位は、平面投影座標系の場合は [m]、地理座標系の場合は[度]とする。
16	4	int	X(E)方向格子数 I
20	4	int	Y(N)方向格子数 J
24	4	float	格子間隔 [m]

(2) データブロック

データブロックは、ヘッダブロックで定義された $I \times J$ の格子に対応した初期津波高を記述する。

表 3-2 データブロック

開始位置 (byte)	サイズ (byte)	型	項目
28	4	float	格子(1, 1)の初期津波高[m]
32	4	float	格子(2, 1)の初期津波高[m]
...			
$28+4*(I-1)$	4	float	格子(I, 1)の初期津波高[m]
$28+4*I$	4	float	格子(1, 2)の初期津波高[m]
$28+4*I+4$	4	float	格子(2, 2)の初期津波高[m]
...			
$28+4*I*(j-1)+4*(i-1)$	4	float	格子(i, j)の初期津波高[m]
...			
$28+4*I*(J-1)+4*(I-1)$	4	float	格子(I, J)の初期津波高[m]

※総データサイズ： $28+4*I*J$

4. 改訂履歴

2021年2月 初版作成

基礎データバンク：沿岸水位抽出点データファイル規約

1. 概要

基礎データバンクの沿岸水位抽出点データを記述するファイルの規約を示す。沿岸水位抽出点データは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

基礎データバンク沿岸水位抽出点データファイルは以下のファイル名とする。

ExtractCoastalPoint-[基礎データ系コード]_[バージョン番号]-M[格子間隔]-R[領域ID].dat

(1) 基礎データ系コード

「基礎データ系コード規約」を参照のこと。

(2) バージョン番号

書式%03dの整数値で記述する。

(3) 格子間隔

沿岸水位抽出点データファイルは、等間隔の格子で区切られた領域の抽出点データを記述するため、1つに決まる格子間隔[m]を書式%04dの整数値で記述する。

(4) 領域 ID

書式%04dの整数値で記述する。

3. データ記述規約

沿岸水位抽出点データファイルは、各行に沿岸水位抽出点毎のデータを「半角スペース」で区切って記述した dat ファイルである。以下にデータブロックの記述規約を示す。

(1) データブロック

データブロックの内容を以下に示す。

表 3-1 データブロック

列番号	項目	書式	説明
01	沿岸水位抽出点 X 座標 (E)	説明参照	座標系は、ファイル名の基礎データ系コードに含まれる EPSG コードと対応する。単位は、平面投影座標系の場合は [m] (書式: %. 2f)、地理座標系の場合は [度] (書式: %. 7f) とする。

列番号	項目	書式	説明
02	沿岸水位抽出点 Y 座標 (N)	説明 参照	座標系はファイル名の「EPSG コード」と対応する。 座標系は、ファイル名の基礎データ系コードに含まれる EPSG コードと対応する。単位は、平面投影座標系の場合は[m]（書式：%. 2f）、地理座標系の場合は[度]（書式：%. 7f）とする。
03	沿岸水位抽出点コード	%s	半角英数字の文字列で指定する。 ファイル内で一意とすること。
04	観測機器フラグ	%d	仮想的に設定したことを示す”0”で固定とする
05	市区町村コード	%06d	沿岸水位抽出点に対応する市区町村の 6 桁の全国地方公共団体コード。未定義の場合、この列は省略する。

(2) データ記述例

データ記述例を以下に示す。

表 3-2 データ記述例

データ記述例	説明
389465.00 3908425.00 TSB0010E3100BOS160325-M0010-R0001-00193_01383-C 0 122262	データブロック
389465.00 3908415.00 TSB0010E3100BOS160325-M0010-R0001-00193_01382-C 0 122262	
389475.00 3908415.00 TSB0010E3100BOS160325-M0010-R0001-00194_01382-C 0 122262	
...	

4. 改訂履歴

2021 年 2 月 初版作成

地点データバンク：観測点データファイル規約

1. 概要

データバンクの観測点データを記述するファイルの規約を示す。観測点データは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

観測点データファイルは以下のファイル名とする。

ObsStation-[EPSGコード]-[日付].dat

(1) EPSGコード

EPSGコードを書式%dの整数値で記述する。

(2) 日付

データを制定した日付を yymmdd の形式で記述する。

3. データ記述規約

観測点データファイルは、各行に観測点毎のデータを「半角スペース」で区切って記述した dat ファイルである。以下にデータブロックの記述規約を示す。

(1) データブロック

データブロックの内容を以下に示す。

表 3-1 データブロック

列番号	項目	書式	説明
01	観測点 X 座標(E)	説明 参照	座標系は、ファイル名の基礎データ系コードに含まれる EPSG コードと対応する。単位は、平面投影座標系の場合は[m]（書式：%.2f）、地理座標系の場合は[度]（書式：%.7f）とする。
02	観測点 Y 座標(N)	説明 参照	座標系はファイル名の「EPSGコード」と対応する。 座標系は、ファイル名の基礎データ系コードに含まれる EPSG コードと対応する。単位は、平面投影座標系の場合は[m]（書式：%.2f）、地理座標系の場合は[度]（書式：%.7f）とする。
03	観測点コード	%s	半角英数字の文字列で指定する。 ファイル内で一意とすること。
04	観測機器フラグ	%d	観測点における観測機器の有無フラグ 観測機器がある場合を”1”、観測機器がない（仮想的に設定した）場合を”0”と定義する。

列番号	項目	書式	説明
05	市区町村コード	%06d	観測点が位置する市区町村の6桁の全国地方公共団体コード。 未定義の場合、この列は省略する。

(2) データ記述例

データ記述例を以下に示す。

表 3-2 データ記述例

データ記述例	説明
504826.57 3972505.37 S1N01 1 534066.70 3966537.87 S1N02 1 367605.00 3907215.00 1042 0 369315.00 3905595.00 1043 0 ...	データブロック

4. 改訂履歴

2021年2月 初版作成

抽出点 ID 規約

1. 概要

データバンクに登録される津波シミュレーション結果の沿岸の抽出点を一意に定める ID の規約を示す。抽出点 ID はファイル名やデータファイル内で利用される。

2. 抽出点 ID

抽出点 ID は以下の構成とする。

[基礎データ系コード]-M[格子間隔]-R[領域 ID]-[格子番号 i]_[格子番号 j]-C
--

(1) 基礎データ系コード

「基礎データ系コード規約」を参照のこと。

(2) 格子間隔

抽出点の位置する領域の格子間隔[m]を、書式%04d の整数値で記述する。

(3) 領域 ID

抽出点の位置する領域の領域 ID を、書式%04d の整数値で記述する。

(4) 格子番号 i, j

(3) で指定した領域における抽出点の格子番号を、書式%05d の整数値で記述する。

3. 改訂履歴

2021 年 2 月 初版作成

基礎データ系コード規約

1. 概要

基礎データ系コードの規約を示す。基礎データ系コードは、基礎データバンクに登録される領域データの格子構造を定めるコードである。

2. 基礎データ系コード規約

基礎データ系コード規約は以下とする。

TSB[最小格子間隔]E[EPSG コード][バージョン識別コード]

(1) 最小格子間隔

最小の格子間隔 [m] を書式%04d の整数値で記述する。

(2) EPSG コード

EPSG コードを書式%d の整数値で記述する。

(3) バージョン識別コード

「最小格子間隔」、「EPSG コード」が同様の場合において、さらなる細分化に対応するために指定する。任意の半角英数字 3 文字と年月日 yymmdd (6 桁数字)を合わせた計 9 文字で記述する。

3. 基礎データ系コード例

基礎データ系コードの例を以下に示す。

表 3-1 基礎データ系コード例

基礎データ系コード	説明
TSB0010E3100B0S160325	UTM54、最小 10m 領域データ系

4. 改訂履歴

2021 年 2 月 初版作成

シナリオリストファイル規約

1. 概要

シナリオリストを記述するファイルの規約を示す。シナリオリストは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

シナリオリストファイルは以下のファイル名で固定とする。

ScenarioList

3. データ記述規約

シナリオリストファイルは、各行にシナリオコード及びシナリオ名を「半角スペース」で区切って記述したファイルである。該当シナリオ名は「シナリオ命名規約」に従うものとする。以下にデータブロックの記述規約を示す。

(1) データブロック

データブロックの内容を以下に示す。

表 3-1 データブロック

列番号	列名	書式	説明
01	シナリオコード	%s	「S」+7桁整数 ファイル内で一意とする。 順序は問わない。
02	シナリオ名	%s	シナリオ命名規約に従う。 ファイル内では一意とする。

(2) 記述例

記述例を以下に示す。

表 3-2 記述例

データ記述例	説明
S0180367 S2015TSB-BC1160325-N2_F2015TSB-JSN160325_PAC_RECT_Mw76_D00_194	
S0180368 S2015TSB-BC1160325-N2_F2015TSB-JSN160325_PAC_RECT_Mw76_D00_196	
S0180369 S2015TSB-BC1160325-N2_F2015TSB-JSN160325_PAC_RECT_Mw76_D00_198	
S0180370 S2015TSB-BC1160325-N2_F2015TSB-JSN160325_PAC_RECT_Mw76_D00_200	
S0180371 S2015TSB-BC1160325-N2_F2015TSB-JSN160325_PAC_RECT_Mw76_D00_202	
S0180372 S2015TSB-BC1160325-N2_F2015TSB-JSN160325_PAC_RECT_Mw76_D00_204	
S0180373 S2015TSB-BC1160325-N2_F2015TSB-JSN160325_PAC_RECT_Mw76_D00_206	
S0180374 S2015TSB-BC1160325-N2_F2015TSB-JSN160325_PAC_RECT_Mw76_D00_208	

データ記述例	説明
S0180375 S2015TSB-BC1160325-N2_F2015TSB-JSN160325_PAC_RECT_Mw76_D00_210	
S0180376 S2015TSB-BC1160325-N2_F2015TSB-JSN160325_PAC_RECT_Mw76_D00_212	
...	

4. 改訂履歴

2021年2月 初版作成

シナリオ命名規約

1. 概要

津波シナリオバンクのシナリオ命名規約を示す。シナリオ名は2章で示す規約により制定される。

2. シナリオ命名規約

シナリオ命名規則は以下とする。

S[計算実施年度]TSB-[バージョン識別コード]-[シナリオ大分類]_[断層名]

(1) 計算実施年度

当該シナリオの計算を実施した年度を西暦 yyyy の形式で記述する。

(2) バージョン識別コード

「計算実施年度」、「シナリオ大分類」が同様の場合で、さらなる細分化に対応するために指定する。任意の半角英数字3文字と年月日 yymmdd (6桁数字)を合わせた計9文字で記述する。

(3) シナリオ大分類

半角英数字2文字で記述する。

表 2-1 シナリオ大分類

シナリオ大分類	種別	説明
LN	線形計算	シナリオの計算が線形長波理論によって実施されたことを示す。
N1	非線形計算 I	シナリオの計算が非線形理論によって実施されたことを示す。
N2	非線形計算 II	シナリオの計算が非線形理論によって実施され、さらに陸域の潮上を有効な値で算出できる格子間隔で計算したことを示す。

(4) 断層名

断層命名規約に従った断層名を記述する。

3. 改訂履歴

2021年2月 初版作成

断層リストファイル規約

1. 概要

断層リストを記述するファイルの規約を示す。断層リストは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

断層リストファイルは以下のファイル名で固定とする。

FaultList

3. データ記述規約

断層リストファイルは、各行に断層コード及び断層名を「半角スペース」で区切って記述したファイルである。該当断層名は「断層命名規約」に従うものとする。以下にデータブロックの記述規約を示す。

(1) データブロック

データブロックの内容を以下に示す。

表 3-1 データブロック

列番号	列名	書式	説明
01	断層コード	%s	「F」+ 7桁整数 ファイル内では一意とする。 順序は問わない。
02	断層名	%s	「断層命名規約」に従う。 ファイル内で一意とする。
03	想定 Mw	%f	断層モデルを設定した際の想定モーメントマグニチュード

(2) 記述例

記述例を以下に示す。

表 3-2 記述例

データ記述例	説明
F0140570 F2015TSB-JSN160325_PAC_RECT_Mw76_D00_194	
F0140572 F2015TSB-JSN160325_PAC_RECT_Mw76_D00_196	
F0140574 F2015TSB-JSN160325_PAC_RECT_Mw76_D00_198	
F0140576 F2015TSB-JSN160325_PAC_RECT_Mw76_D00_200	
F0140578 F2015TSB-JSN160325_PAC_RECT_Mw76_D00_202	
F0140580 F2015TSB-JSN160325_PAC_RECT_Mw76_D00_204	
F0140582 F2015TSB-JSN160325_PAC_RECT_Mw76_D00_206	
F0140584 F2015TSB-JSN160325_PAC_RECT_Mw76_D00_208	

データ記述例	説明
F0140586 F2015TSB-JSN160325_PAC_RECT_Mw76_D00_210 F0140588 F2015TSB-JSN160325_PAC_RECT_Mw76_D00_212 ...	

4. 改訂履歴

2021年2月 初版作成

断層命名規約

1. 概要

津波シナリオバンクの断層命名規約を示す。断層名は2章で示す規約により制定される。

2. 断層命名規約

断層命名規則は以下とする。

F[作成年度]TSB-[バージョン識別コード]_[固有の断層識別文字列]

(1) 作成年度

当該断層を作成した年度を西暦 yyyy の形式で記述する。

(2) バージョン識別コード

「作成年度」が同様の場合で、さらなる細分化に対応するために指定する。任意の半角英数字3文字と年月日 yymmdd (6桁数字)を合わせた計9文字で記述する。

(3) 固有の断層識別文字列

それぞれ固有に設定した断層識別文字列を記述する。「作成年度」と「バージョン識別コード」のペアをキーにしてグルーピングした際に固有の文字列となっていること。

3. 改訂履歴

2021年2月 初版作成